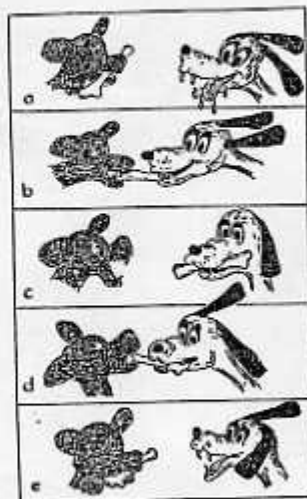


第2号は、「教育実習生による図書紹介」です。実習生の皆さんは、本校で一体どんな本に出会ったのでしょうか。この紹介で、これは！と思った本があったら、ぜひ図書館でも探してみてください。



齋藤 幸 なぜ日本人は争ばなくなったのか 講談社

読者嫌いだったかつての私であれば、実に耳の痛い内容でした。本書はまず「リスペクトの精神」を失った日本人の現状を説明し、次になぜそのような現状に至ってしまったのかについて時系列的に説明し、最後にその解決策として読者の重要性を説いています。本書を読んでいると、世の中の様々な施策がすべて後手後手に回っている気がして、とてもゾッとしました。

武者小路実篤 女情 岩波書店 08111-7 50-4

文学作品といえばおカタイ感じがしますが、普通に恋愛モノです。野島、杉子、大宮をめぐるはたから見ていたらとても楽しい恋愛模様です。ただ男性の諸君は物語中で野島と大宮どちらに感情移入するかで読後感が大きく変わります。天国と地獄です。でもみなさんの周りでも結構こういうことってあるんじゃないでしょうか？そのとき野島は、杉子は、大宮はどう考えどう動くのか！恋愛中の男女の心が赤裸々に綴られています。

福岡伸一 生物と無生物のあいだ 講談社現代新書 460 F31

生命とは何か？という素朴な疑問から始まる。京大農学部で“変人”と呼ばれていたらしい筆者のエッセイ。専門の知識がない人でも読みやすい、ロマンあふれる内容になっています。高校時代、生物・化学に苦しめられた私でも、面白く読めました。生物・化学を専門にしたい理系の方にはもちろん、生物・化学に興味のない方にもおススメ出来る一冊です！

佐藤多佳子 一瞬の風になれ 講談社 913 S84 1-1~1-3

陸上部に打ち込む高校生が主人公です。彼の周りには、天才と呼ばれる二人のスポーツ選手がおり、その人達に対する様々な思いが丁寧に描かれています。登場人物の言葉使いがとても現代風で、高校生のみなさんはとても親近感を持って読むことができると思います。スポーツに汗を流す登場人物のおかげで、読者の心も爽やかになれます。

脇田 秀吉の経済感覚—経済を武器とした天下人 中公新書 210-W11-3

一介の足軽から這い上がった豊臣秀吉は、悲運の最期を遂げた主君・織田信長の後継者としての地位を確立し、天下統一を進める。この史上稀にみる成功の秘訣は、経済の仕組みを熟知し、これを実行する才覚に恵まれた秀吉自身の実力化に化ならない。商品経

済の本質を巧みに活用し、大名統制・検地・貿易などにより実権を掌握して、近代社会の産業役を果たした秀吉の軌跡を辿り、その現代性を追求する。

芥川龍之介 地獄絵 岩波文庫 081 I1-7 70-2

もうすでに読まれている方も多いかもかもしれませんが、この「地獄絵」は様々な側面からアプローチすることにより、とても興味深い点にいくつもひっかかるような気がします。一度ではなく読む度に、絵画のごとく感じ方が変化する、まさに作品自体が地獄絵のようにすら思います。中でも、芸術に焦点をあて考察するにあたり、私自身にも大変インパクトのある作品ですが、どのように思われるでしょうか。

思田 陸 夜のピクニック 新潮社 913-03-1

「みんなで、夜歩く。たったそれだけのことなのにね。どうして、それだけのことが、こんなに特別なんだろうね」 大学受験を控えた高校三年生達の、静かでゆっくりな青春小説。これまでの思い出や将来のこととか、主人公達に共感する人も多いのではないのでしょうか。個人的に、冬の断片よりもこの歩行祭に挑戦してみたかったです。

イェレ・イバゲザ 生かされて PHP研究所

私は大学でアフリカの言語や歴史・文化を学んでおり、関連した本を一冊紹介します。アフリカ中央に位置するルワンダ共和国は1994年に犠牲者100万人ともいわれる大虐殺を経験しました。この本はその虐殺を生き抜いた女性の実話をつづったものです。虐殺という重いテーマですが、この本はいのちの尊さ、家族への愛、生きる意志と智慧など、私たちにとって「かけがえのないもの」を教えてください。

ミラン・クンデラ 存在の耐えられない軽さ 河出書房新社 908 S30 1-3

正直言うとかなり迷った。警句、筆頭候補であったクンデラに決定。「無知」もこれまた激賞本である。彼の小説はひとつの問いに始まる。「重さとは本当に恐ろしい事で、軽さとは素晴らしいことだろうか？」という様に。恋愛小説である。だが、概して哲学的である。この問いに対し、小説という表現によって、惑する能力を欠いた外科医の愛の生活を描くことによって、クンデラの答えは示される。

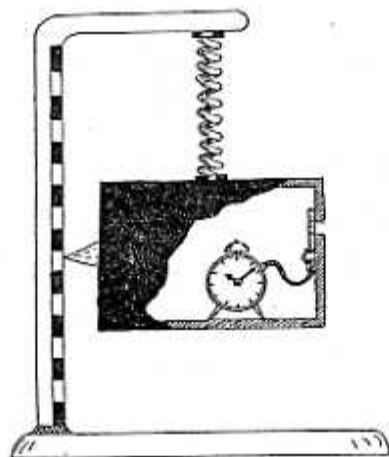
堤 未果 ルボ食肉大国アメリカⅠ・Ⅱ 岩波新書 302-T18-1

アメリカは新自由主義の第一線を行っている国である。そこでは「弱者」を食いもの（金儲けの対象）とし、人間が人間らしく生きることを許さない社会が存在する。「教育」「いのち」「暮らし」といった対象を市場の論理で回すようになった時に、一体どのような光景が広がるのか。日本にとって他人言わないこの流れについてぜひ考えてほしい。

三国志の本は数多く出版されていますが、北方謙三をお勧めします。正史を元にしており、演義に比べて派手な演出は少ないが、それを補ってあり余る程人物描写が巧みで引き込まれます。様々な英雄が登場しますが、特に呂布の描写が斬新かつ秀逸で、いままでの呂布のイメージが一変されました。戦いの場面では、呂布対曹操・劉備連合軍の徐州争奪戦が熱いです。

三島由紀夫 春の雪(豊饒の海・第一巻) 新潮社 913 M13 7-1

自決直前に書き上げた「豊饒の海」、輪廻転生を描いた全四巻分なる小説の第一巻を成すのが「春の雪」。大正時代の侯爵家子息と伯爵家令嬢の破滅へと向かう恋愛を、三島ならではの美しい文章で綴っています。三島というと難解な印象がありますが、この作品は映画化されており、ストーリー自体もとても面白いのでオススメです。



山崎婁子 大地の子(上・中・下) 文藝春秋 913 Y14 10-1~10-3

開拓時代に満州に渡り、戦争が起きたために家族と離れてしまった松本勝男こと陸一也。良心的な養父母に拾われ中国人として育つが、日本人の血が邪魔をして共産党入党も許されない。その中、日中合同の製鉄所プロジェクトで実父と再会。戦争とは？国とは？人とは何なのかを問いかける力作。

佐野洋子 100万回生きたねこ 講談社

絵本というと「幼児・子ども向け」というイメージを持っていませんか？ 大人が読んでも面白いものなのです。大学で授業に使おうと研究しているくらい、絵本は「読むもの」です。この本はすごい!! 考えさせられます!! 一度読んで人ももう一度読むと見方が変わるかも…

マイケル・ライス マネー・ボール カルティス講談社文庫

野球は記録のスポーツだ。打率や打点といった旧指標以上に重視されるべき指標が沢山ある。常識を覆すものも多い。統計学的観点から野球を分析する手法をセイバーメトリクスとよぶが、日本では普及していない。この本は、統計データの活用で小規模予算ながら強豪の座に登りつめたオークランド・アスレックスのGMビリー・ビーンの軌跡。野球の見方が変わる。

高橋しん 最終兵器彼女 エッグコミックス

人が人として生きていくとはどういうことか。そういうことを考えたことのある人、興味がある人にはぜひ読んでほしい。全七巻で、そこまで長くもない。僕は高校の時に読んで、教室で予演していた。舞台となる北海道の街にも行くぐらいハマりました。

ニキリンコ 自閉っ子、こういう風にできてます 花風社

言語能力に問題が無いアスペルガー症候群である筆者と藤家寛子さん、それに編集者の三人の対談。自閉症独特の身体感覚と世界観に焦点をあてているが、同じヒトという種なのに、脳の微妙な差異でこんなにも感じ方が違ってくるのかと、生命の脳の不思議を感じた。対話形式で気軽に読めます。

幸田哲也 武士道シックスティーン 文春文庫

武士道三部作の第一弾。最近成見瑠子・北乃きい主演で映画化された。物語は香織と早苗の二人が剣道部を通じて成長していく等身大の高校生の姿が描かれている。皆さんも心の中で「ああ、あるある！」と思わずうなずいてしまうと思いますよ。

フレイトカター リトル・トリー めろくまーる

インディアンのチェロキー族の少年の自伝的物語。その環境、家族の絆、人種差別、人間関係等が語られ、マイノリティーが社会で生きていくことの厳しさを教えてくれると共に、人間とは本来どのように生きるべきかを感じさせてくれる作品。主人公の祖父母の生き方に示される自然との共生に、人が本来持つ力を感じる。